

神奈川県産シャープゲンゴロウモドキの標本を発見す

阿部 光典

Terutsune ABE: An Extant Specimen of *Dytiscus sharpi* (Dytiscidae)
from Kanagawa Prefecture, Central Japan

結論を先に書く。データはつぎのとおりである。

シャープゲンゴロウモドキ *Dytiscus sharpi* WEHNCKE, 1♀, 横浜, 17-VIII-1935, 神田重夫採集, 国立科学博物館所蔵。

なんといっても、これはビッグ・ニュースである。神奈川県内に、このゲンゴロウがいるのかどうかについては、高桑 (1987) が報じているように、岡野 (1941) のリストをめぐる疑心暗鬼の状態が続いていた。岡野リストにこの種名は載っているが、データが一切、書かれていないし、標本も現存していない。「茅ヶ崎か鶴沼あたりかな?」とか「いや箱根の芦の湖の可能性もある」などと推測が乱れ飛んでいた。

小生は 1990 年 1 月 17 日に、マルコガタノゲンゴロウの標本調査のため、科博の上野俊一博士を訪れた。資料室で、目的の調査も終わり、ボヤッと箱の中を眺めていたら、片隅に並んでいるシャープゲンゴロウモドキが目にとまった。現在の小生にとって、シャープゲンゴロウモドキはそれほど心ときめくほどの虫でもないが、そのうちの 1 頭につけられていた、うす茶色に風化したラベルを見て心臓が止まるかと思うほどびっくりした。そこには、なんと“YOKOHAMA”と記されているではないか! シーンと静まり返った資料室で、小生は「キャー」と叫びそうになった。

ラベルには S. KANDA と書いてあるが、どんな人だろうか? 別のラベルには「白畑孝太郎氏寄贈標本, 1980 年」と記されている。この 2 枚目のラベルは科博で印刷し、添付したものとのことである。

帰宅後、黒沢良彦博士にお電話し、お教えを乞うた。博士のお話によると、S. KANDA とは故神田重夫氏のことであり、井上 寛氏がご指導を受けられた先生であるとの由。また本学会会員でもある、横浜の岩瀬和夫氏に、この件につき伺ったところ、戦前、氏が神田先生 (当時、横浜二中勤務) 宅を訪れた際に標本箱のなかに 1 頭あったのを見た覚えがあるとのことで、多分その標本が科博に寄贈されたのだろうという。また採集地は、鶴見の三つ池 (神田氏はこの近くに住んでいた) に間違いのないとのことであった。

標本は ♀ で、上翅には深い溝がきれいに刻まれており、比較的大型の個体である。千葉県産の ♀ では溝の深い個体が少なく、その点からも貴重な標本である。「国宝指定」とまではいかないにしても、神奈川県産の「県宝 (?)」として指定されてしかるべき標本である。

最後になりましたが、このような重要な標本を発見する機会を与えてくださった上野俊一博士、ならびに、いろいろなお教示をいただいた黒沢良彦博士、さらには採集地の推定について情報をくださった岩瀬和夫氏に心からお礼申し上げます。

参 考 文 献

- 高桑正敏, 1987. 神奈川県産ゲンゴロウ類資料 (1). 神奈川自然誌資料, (8): 85-88.
岡野磨瑛郎, 1941. 神奈川県産甲蟲誌 (1). 蟲の世界, 4: 130-133.